

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年11月7日
【四半期会計期間】	第81期第2四半期（自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日）
【会社名】	クニミネ工業株式会社
【英訳名】	KUNIMINE INDUSTRIES CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 國峯 保彦
【本店の所在の場所】	東京都千代田区岩本町一丁目10番5号
【電話番号】	03(3866)7255
【事務連絡者氏名】	経理部長 岩崎 健太郎
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区岩本町一丁目10番5号
【電話番号】	03(3866)7256
【事務連絡者氏名】	経理部長 岩崎 健太郎
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次		第80期 第2四半期連結 累計期間	第81期 第2四半期連結 累計期間	第80期
会計期間		自平成25年 4月1日 至平成25年 9月30日	自平成26年 4月1日 至平成26年 9月30日	自平成25年 4月1日 至平成26年 3月31日
売上高	(千円)	5,253,604	5,408,667	12,044,952
経常利益	(千円)	521,375	521,716	1,723,617
四半期(当期)純利益	(千円)	309,688	314,116	1,075,671
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	466,445	382,113	1,191,943
純資産額	(千円)	11,478,004	12,400,984	12,203,502
総資産額	(千円)	14,232,841	15,036,661	15,283,965
1株当たり四半期(当期)純利益金額	(円)	25.30	25.66	87.88
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額	(円)	-	-	-
自己資本比率	(%)	79.7	81.4	78.8
営業活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	681,825	1,034,890	1,441,266
投資活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	415,915	247,594	772,805
財務活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	410,325	271,175	514,564
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	(千円)	2,653,677	3,541,407	2,999,338

回次		第80期 第2四半期連結 会計期間	第81期 第2四半期連結 会計期間
会計期間		自平成25年 7月1日 至平成25年 9月30日	自平成26年 7月1日 至平成26年 9月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	11.90	15.58

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額について、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

なお、第1四半期連結会計期間より報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「第4 経理の状況

- 1 四半期連結財務諸表 注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1)業績の状況

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、日銀の積極的な金融緩和に伴う円安・株高を背景に企業心理が小幅ながらも改善方向に転じ、緩やかな回復基調が続きましたが、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動や物価上昇に伴う実質所得低下の影響などにより、弱い動きもみられました。

このような状況下、当社グループにおきましては、主要納入先のうち、鋳物業界は、自動車の国内生産台数は好調に推移しておりますが、建機等は輸出向け等で減少が続いており、土木建築業界において、地熱向けや止水材が好調に推移しているものの、アグリ事業において消費税率引き上げによる反動減があったこと等により、全体としては厳しい状況で推移いたしました。

このような背景のもと、当社グループは、これまでの海外展開への取り組みや震災復興需要関連の取り込み、郡山工場と小名浜工場のシナジー効果の発揮を継続して推進するとともに、電力料金の値上げや円安基調に伴う原材料価格の上昇に対して原価の上昇を最小限に抑える取り組みに注力し、売上高および収益の確保に努めてまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、主力のペントナイト事業部門が増収となったものの、採算性の高いアグリ事業部門や化成品事業部門の減益により、売上高は54億8百万円（前年同期比 3.0%増）、営業利益は4億26百万円（同 2.2%減）となりました。経常利益は為替差益が前期の8百万円から当期は37百万円に増加したこと等により5億21百万円（同 0.1%増）となり、四半期純利益は3億14百万円（同 1.4%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

ペントナイト事業

鋳物関係は、消費税率引き上げ後の反動減は軽微にとどまり、乗用車や商用車の需要に伴い国内生産台数が好調、増収となりました。土木建築関係は、地熱向けが大幅に増加、止水材が海外向けに増加したこと等により増収となりました。ペット関係は、消費税率引き上げ後の反動減はあったものの、猫砂市場の全体的な持ち直しにより横這いで推移しました。

この結果、当セグメントの売上高は40億48百万円（前年同期比 3.3%増）、セグメント利益は5億50百万円（同 16.4%増）となりました。

アグリ事業

農薬受託加工において、既存農薬は消費税率引き上げによる生産前倒しの反動があったものの、農薬向けクニピアが好調に推移し増収となりましたが、設備新設にかかる減価償却費等の増加により減益となりました。

この結果、当セグメントの売上高は8億53百万円（同 1.1%増）、セグメント利益は34百万円（同59.9%減）となりました。

化成品事業

ファインケミカルのうち吸着用輸出向けクニピアで増収し、環境保全処理剤が横這いで推移したことにより全体として増収となりましたが、採算性の高い化粧品向けクニピア等での減収が響き減益となりました。

この結果、当セグメントの売上高は5億6百万円（同 3.6%増）、セグメント利益は37百万円（同31.1%減）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における連結ベースの現金及び現金同等物（以下「資金」）は、前連結会計年度末に比べ5億42百万円増加し、35億41百万円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、10億34百万円（前年同期比51.8%増）となりました。これは、税金等調整前四半期純利益が前年同期の5億21百万円から5億4百万円に減少、売上債権の減少額が前年同期の6億92百万円から5億48百万円へ減少したものの、たな卸資産が前年同期の66百万円の増加額から2億37百万円の減少額に転じた他、仕入債務の減少額が前年同期の2億円から1億19百万円に減少したこと等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、2億47百万円（前年同期比40.5%減）となりました。これは、主に、有形固定資産の取得による支出が前年同期の4億2百万円から2億20百万円に減少したこと等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、2億71百万円（前年同期比33.9%減）となりました。これは、主に、配当金の支払額が前年同期の3億5百万円から1億83百万円に減少したこと等によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、73百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当社グループの経営成績に重要な影響を与える要因につきましては、当第2四半期連結累計期間において、重要な変更はありません。

当社グループは、ベントナイト本来の性能を最大限に活かした付加価値製品の開発と、高収益化の事業構造を構築するため、「科学された資源をシステムで販売する事業」をキーワードに、更なる高付加価値商品の開発へ注力するとともに、創業以来70年間にわたり蓄積した知見と技術を活かして、海外市場への積極的な進出を主眼とした、平成25年度を初年度とする中期経営計画を策定しております。

この中期経営計画は、当社グループが長期にわたり発展・成長するために重要なものであります。日本経済を取り巻く環境は、政府経済政策が一定の効果を発揮し始め回復が期待されるものの、国内外において様々な問題を抱えており、経営環境は予断を許さない状況で推移するものと予想されますが、長期的展望のもと積極的に中期経営計画を実行し、事業展開を図っていく所存であります。

(6) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社グループは、運転資金および設備資金につきましては、内部資金または金融機関からの借入金により資金調達をすることとし、安定的な資金調達により十分な流動性を確保することを方針としております。このうち、借入による資金調達につきましては、短期借入金および長期借入金合計で26百万円（前連結会計年度末に比べ73百万円減少）となっており、現時点で実質無借金を維持しておりますが、金融機関とコミットメントライン契約10億円を設定し、資金調達の機動性および安定性を確保しております。特に、短期の運転資金につきましては、金融機関より決算期を超えない範囲で完済することを基本として資金調達をすることとしております。

(7) 経営者の問題意識と今後の方針について

当社グループの経営陣は、現在の経営環境及び入手可能な情報に基づき、最善の経営方針を立案するよう努めておりますが、当社グループをとりまく経営環境は今後も厳しい状況が続くものと考えられます。このような状況下で、当社グループといたしましては、「(5) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し」にも記載しましたとおり、戦略的課題に重点的に取り組むことで、他社との差別化を図って、高収益化構造を実現することを最優先課題として考えております。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	40,000,000
計	40,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成26年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成26年11月7日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	14,450,000	14,450,000	東京証券取引所 JASDAQ(スタン ダード)	(注)
計	14,450,000	14,450,000	-	-

(注) 提出会社であるクニミネ工業株式会社は、平成26年9月19日開催の取締役会決議により、効力発生日を平成26年11月4日として、単元株式数を1,000株から100株に変更しております。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成26年7月1日～ 平成26年9月30日	-	14,450,000	-	1,617,800	-	2,217,110

(6) 【大株主の状況】

平成26年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
クニミネエンタープライズ株式会社	神奈川県横浜市鶴見区岸谷1丁目21-28	4,542	31.43
クニミネ工業取引先持株会	東京都千代田区岩本町1丁目10-5	785	5.43
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	655	4.53
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7-1	465	3.21
日本化薬株式会社	東京都千代田区丸の内2丁目1-1	438	3.03
株式会社みずほ銀行 (常任代理人 資産管理サービス信託銀行株式会社)	東京都千代田区内幸町1丁目1-5 (東京都中央区晴海1丁目8-12)	410	2.83
クマイ化学工業株式会社	東京都台東区池之端1丁目4-26	329	2.28
ラサ商事株式会社	東京都中央区日本橋蛸殻町1丁目11-5	325	2.24
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1丁目6-6	306	2.11
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1丁目1-2	300	2.07
計	-	8,555	59.21

(注) 提出会社であるクニミネ工業株式会社は、自己株式を2,211千株(15.30%)所有しております。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 2,211,000	-	単元株式数 1,000株
完全議決権株式(その他)	普通株式 12,177,000	12,177	同上
単元未満株式	普通株式 62,000	-	-
発行済株式総数	14,450,000	-	-
総株主の議決権	-	12,177	-

【自己株式等】

平成26年9月30日現在

所有者の氏名又は 名称	所有者の住所	自己名義所有株 式数(株)	他人名義所有株 式数(株)	所有株式数の合 計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) クニミネ工業(株)	東京都千代田区岩 本町1丁目10-5	2,211,000	-	2,211,000	15.30
計	-	2,211,000	-	2,211,000	15.30

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成26年7月1日から平成26年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、東陽監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,149,786	3,683,384
受取手形及び売掛金	3,850,081	3,301,858
有価証券	203,853	216,924
商品及び製品	331,011	307,246
仕掛品	245,389	286,126
原材料及び貯蔵品	1,260,479	1,006,286
その他	163,617	158,040
貸倒引当金	1,788	3,172
流動資産合計	9,202,430	8,956,694
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,439,971	1,423,631
機械装置及び運搬具(純額)	1,133,012	1,060,745
土地	1,780,254	1,780,254
リース資産(純額)	68,063	61,728
その他(純額)	77,509	70,060
有形固定資産合計	4,498,811	4,396,421
無形固定資産	117,551	119,142
投資その他の資産	2,146,517	2,156,403
固定資産合計	6,081,534	6,079,967
資産合計	15,283,965	15,036,661
負債の部		
流動負債		
買掛金	787,664	667,733
短期借入金	99,300	26,100
未払法人税等	468,943	158,623
賞与引当金	144,433	133,764
その他	575,529	610,479
流動負債合計	2,075,870	1,596,700
固定負債		
退職給付に係る負債	12,300	12,001
閉山費用引当金	484,721	487,334
環境対策引当金	490	490
資産除去債務	23,494	23,494
その他	483,584	515,655
固定負債合計	1,004,592	1,038,976
負債合計	3,080,463	2,635,677

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,617,800	1,617,800
資本剰余金	2,223,224	2,223,224
利益剰余金	8,448,112	8,578,628
自己株式	526,487	527,518
株主資本合計	11,762,649	11,892,134
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	267,367	332,770
繰延ヘッジ損益	619	16,614
為替換算調整勘定	12,628	3,004
その他の包括利益累計額合計	279,376	346,381
少数株主持分	161,476	162,468
純資産合計	12,203,502	12,400,984
負債純資産合計	15,283,965	15,036,661

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	5,253,604	5,408,667
売上原価	3,579,600	3,747,915
売上総利益	1,674,004	1,660,751
販売費及び一般管理費	1,237,443	1,234,000
営業利益	436,560	426,750
営業外収益		
受取利息	804	352
受取配当金	63,107	51,920
為替差益	8,549	37,279
貸倒引当金戻入額	11	-
その他	18,676	10,059
営業外収益合計	91,150	99,611
営業外費用		
支払利息	2,492	2,068
コミットメントフィー	1,479	1,467
その他	2,362	1,108
営業外費用合計	6,334	4,645
経常利益	521,375	521,716
特別利益		
固定資産売却益	8,038	249
特別利益合計	8,038	249
特別損失		
固定資産除却損	8,363	17,071
特別損失合計	8,363	17,071
税金等調整前四半期純利益	521,050	504,894
法人税、住民税及び事業税	158,905	163,274
法人税等調整額	42,698	20,257
法人税等合計	201,604	183,532
少数株主損益調整前四半期純利益	319,446	321,362
少数株主利益	9,758	7,245
四半期純利益	309,688	314,116

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	319,446	321,362
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	88,358	65,403
繰延ヘッジ損益	2,724	17,234
為替換算調整勘定	55,916	21,886
その他の包括利益合計	146,999	60,751
四半期包括利益	466,445	382,113
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	440,710	381,121
少数株主に係る四半期包括利益	25,734	992

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	521,050	504,894
減価償却費	247,145	266,146
貸倒引当金の増減額(は減少)	11	1,383
賞与引当金の増減額(は減少)	24,634	10,669
受取利息及び受取配当金	63,912	52,272
支払利息	2,492	1,324
為替差損益(は益)	8,271	36,966
固定資産除却損	8,363	17,071
売上債権の増減額(は増加)	692,120	548,222
たな卸資産の増減額(は増加)	66,045	237,221
仕入債務の増減額(は減少)	200,794	119,930
その他	16,255	91,710
小計	1,091,247	1,448,137
利息及び配当金の受取額	63,912	52,272
利息の支払額	2,254	1,115
法人税等の支払額	471,080	464,403
営業活動によるキャッシュ・フロー	681,825	1,034,890
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	402,025	220,087
無形固定資産の取得による支出	2,079	4,507
投資有価証券の取得による支出	6,341	7,329
その他	5,469	15,669
投資活動によるキャッシュ・フロー	415,915	247,594
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	91,000	73,200
ファイナンス・リース債務の返済による支出	13,244	13,698
自己株式の純増減額(は増加)	880	1,030
配当金の支払額	305,201	183,245
財務活動によるキャッシュ・フロー	410,325	271,175
現金及び現金同等物に係る換算差額	32,782	25,947
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	111,633	542,068
現金及び現金同等物の期首残高	2,765,311	2,999,338
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,653,677	3,541,407

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 受取手形割引高

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
受取手形割引高	102,391千円	93,339千円

2 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
投資その他の資産	349千円	349千円

3 当社は、資金調達の機動性および安定性の確保を目的として、取引金融機関4社とコミットメントライン契約を締結しております。当該契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
コミットメントラインの総額	1,000,000千円	1,000,000千円
借入実行残高	- 千円	- 千円
差引額	1,000,000千円	1,000,000千円

なお、上記の契約には、次の財務制限条項が付されております。

各連結会計年度末における当社の単体貸借対照表の純資産の部の金額を、直前の決算期のお金の75%以上に維持すること。

各連結会計年度末における当社の単体損益計算書の経常損益が、2期(または3期)連続して経常損失とならないこと。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
発送運賃	492,585千円	480,884千円
賞与引当金繰入額	50,202千円	48,323千円
貸倒引当金繰入額	- 千円	1,383千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
現金及び預金勘定	2,781,469千円	3,683,384千円
預入期間が6ヶ月を超える定期預金	321,296千円	358,901千円
有価証券(MMF)	193,504千円	216,924千円
現金及び現金同等物	2,653,677千円	3,541,407千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	306,040	25	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月27日 定時株主総会	普通株式	183,600	15	平成26年3月31日	平成26年6月30日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ベントナイト 事業	アグリ 事業	化成品 事業	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	3,920,052	844,581	488,970	5,253,604	-	5,253,604
セグメント間の内部売上 高又は振替高	31,468	-	24,536	56,004	(56,004)	-
計	3,951,521	844,581	513,506	5,309,609	(56,004)	5,253,604
セグメント利益	472,789	85,570	54,959	613,319	(176,758)	436,560

(注)1. セグメント利益の調整額 176,758千円には、セグメント間取引消去 11,905千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 223,999千円及び棚卸資産の調整額 35,334千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ベントナイト 事業	アグリ 事業	化成品 事業	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	4,048,618	853,424	506,623	5,408,667	-	5,408,667
セグメント間の内部売上 高又は振替高	25,551	-	41,239	66,790	(66,790)	-
計	4,074,169	853,424	547,862	5,475,457	(66,790)	5,408,667
セグメント利益	550,118	34,333	37,862	622,313	(195,562)	426,750

(注)1. セグメント利益の調整額 195,562千円には、セグメント間取引消去 363千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 226,742千円及び棚卸資産の調整額 30,815千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する情報

第1四半期連結会計期間より、平成26年4月1日付の組織変更において簡易的な事業部制を採用するとともに、事業分野毎に各製品群の整理・統合等を行っております。これにより、「化成品事業」の区分に属していた止水材は「ベントナイト事業」に、農薬用途向け純モンモリロナイトは「アグリ事業」へ、所属する区分をそれぞれ変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

各事業の主な製品およびサービスの内容は以下のとおりであります。

- (1) ベントナイト事業・・・ 鋳物用、土木建築用、ペット用トイレ砂等のベントナイト、調泥剤、止水材
- (2) アグリ事業・・・ 農薬加工、農薬基剤及び農薬加工原材料、農薬資材等、飼料等、土壌改良剤、農薬用途向け純モンモリロナイト
- (3) 化成品事業・・・ 純モンモリロナイト、吸着剤、環境保全処理剤

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	25円30銭	25円66銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	309,688	314,116
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	309,688	314,116
普通株式の期中平均株式数(株)	12,240,613	12,239,624

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年11月7日

クニミネ工業株式会社

取締役会 御中

東陽監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 横倉 光男 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 菊地 康夫 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているクニミネ工業株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成26年7月1日から平成26年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、クニミネ工業株式会社及び連結子会社の平成26年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. X B R Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。